

## 平成30年産 紀南の梅産地情報

2018/07/18

### 「生産概況」

1. 今年の梅の開花は、1月末から2月にかけて気温が低く、南高の満開は2月24日と平年より10日程度遅くなった。開花期間中は暖かい日が続き、例年になく開花期間が短くなったが、授粉樹との開花はほぼ揃い着果数は前年・平年並みとなった。また、3月以降も平年を上回る気温で推移したため、南高の実肥りは平年より10日程度早くなった。

出荷は小梅で5月10日、古城は5月14日から、主力の南高は5月27日からそれぞれ出荷が始まったが、小梅・古城の一部の園地でカメムシによる被害の発生があった。4月に入っても平年を上回る気温で推移し、また4月下旬以降は定期的な降雨があり、実肥りも良好となり出荷量は多くなった。

6月に入っても降雨が続き、南高ではすす斑病が多発し秀品率を低下させた。

2. 生産量は、小梅は前年・平年より多くなった。古城では前年より多く、平年並みとなった。主力の南高では前年より多く、平年よりやや多くなった。

7/18日時点（生産見込量：ト）

品 種	30年産	29年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	1,077	804	872	134%	124%
古 城	707	545	693	130%	102%
南 高	25,330	17,626	22,348	144%	113%
在来系	572	467	563	122%	102%

### 「安全・安心対策」

J A紀南の安全・安心対策は16年目に入り、全出荷者の生産履歴の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析自主検査、適正農業規範(GAP)の点検を実施した。

### 「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動の中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。授粉対策や山畑等不安定園地での品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。